

キリスト教文化研究所研究フォーラム

# J.S.バッハの音楽と 音楽修辞学



「修辞学」というのは、「弁論術」あるいは「演説術」です。音楽でもって人の心を動かす、感動させる効果的なやり方を教えるのが「音楽修辞学」なのです。バロック音楽は17世紀初頭のイタリアでオペラの誕生とともに始まります。オペラでは登場人物は、歌詞にある言葉そしてそこに描かれた感情や情緒を歌で表現します。こうしてバロック音楽は「感情の音言語」となりました。声楽に限らず器楽においても、音楽家たちは聴き手の心に感情を喚起することに苦心したのです。本講演では、ヨーロッパのリベラル・アーツの伝統にある修辞学と音楽修辞学について、その基本概念を説明した後、修辞学の観点からバッハの音楽を考察してみたいと思います。

## 【演奏曲目】

J.S.バッハ

《アダムの墮落によりてすべては朽ちぬ》

BWV637

D.ブクステフーデ

《アダムの墮落によりてすべては朽ちぬ》

BuxWV183



2024年11月30日(土) 14:00～16:00  
開場 13:30

会場：東北学院大学五橋キャンパス 押川記念館押川記念ホール

講師：久保田 慶一 東京経済大学 客員教授

椎名 雄一郎 本学文学部総合人文学科 教授  
[オルガンデモンストレーション]

受講料無料

お申込み不要

直接会場へお越しください

問い合わせ先／東北学院大学 研究支援部研究支援課 TEL：022-264-6401 Email：c1511023@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

主催／東北学院大学 キリスト教文化研究所